

黒河(くろこ)の会便り 第 36 号

謹賀新年



平成 29 年元旦 初日の出

世界遺産 黒河道の入口 定福寺 1 月の行事

◆ お般若

1 月 5 日、定福寺では恒例の大般若経 600 巻の転読法会が行われました。唐の玄奘三蔵法師がインドで釈迦の説教を受け、修行後 4 年の歳月をかけ漢文に翻訳したと云う大般若波羅蜜経写本は、元禄 15 年（1702）紀州堂村三軒屋彦三郎によって定福寺に寄贈されたものです。毎年正月 5 日に転読供養が行われ、檀徒役員列席のもと国家安泰・五穀豊穰・家内安全・無病息災を祈ります。



◆ 堂ノ講修正会（しゅしょうえ）

定福寺恒例修正会が 1 月 8 日執り行われました。以前は旧暦の正月 2 日と決まっていたのですが、近年は 10 日前後の休日に行われています。秘仏阿弥陀如来のご開帳に始まり、理趣経の読経、神名帳による全国津々浦々の勧請し、家内安全・無病息災を祈願、続いて牛玉定福寺寶印によるお精根入れ、灯送り、弓放ちと神仏習合の形を今に残す伝統行事が行われました。生憎の雨で、灯送り、弓放ちは雨の中となりました。ちなみに定福寺に残されている神名帳は、元禄壬申 5 年（1692）定福寺に赴任してきた住職が、神名帳が無いのに気づき、神職を訪ね作成した旨の添え書きが巻かれています。



(ご開帳された須弥壇の阿弥陀如来)



(神名帳による全国神々の勧請)



(灯送りされた9重石塔)
(弘安8歴建立)

◆十三仏彫板画開眼奉納

昨年10月、高野参詣道・黒河道が世界遺産に追加登録され、登録記念として黒河道の入口である定福寺に、彫板画創始者、田村茂氏(大阪府泉南市在住)より十三仏の彫画が寄贈されました。彫画の裏面には檀家・信者の祈願文が書き込まれています。1月21日、初弘法となるこの日、午後1時より彫画仏寄贈関係者、定福寺檀徒役員など20数名出席席のもと、生地住職の讀経による法会が行われ、紀州久組子細工師池田秀峰氏(橋本市)の協力をえて、十三仏彫画は無事に本堂の壁面に祀られました。(↓法会の様子と天井に祀られた彫画)

